自ら考え、
学びをすすめる金井の子

～「学び続ける力」を育むことを目指して～

町田市立金井小学校

目次

挨拶　はじめに　P.2

研究構想図　P.3

実践紹介　P.4

成果と課題　P.8

あとがき　P.11

ご指導いただいた先生方
携わった教職員　P.12

校長挨拶

はじめに

町田市立金井小学校校長　須藤　潤一郎

本校は、町田市教育委員会研究指定校の指定として、この２年間の研究を行うことができました。2024年度からスタートした「町田市教育プラン24-28」を受け、その具現化を目指して研究を進めてまいりました。

本研究では、児童が「自分で学ぶ」意識をもち、自らの力で「学び続ける」ことができるように、教師はどのように指導をすべきなのかについて「学び続けた」２年間でした。子どもたちが「挑戦」する気持ちをもつ、「自己理解」を深める、「粘り強く」学ぶ、「ポジティブ」に考えるという姿や、「他者を受容」し、「協調性」をもって学びに向かう姿が見られるようになるには、とても時間がかかります。日々の授業や学校生活全体の中で育てなくては到達できません。本校の研究は『研究の日常化』を特に意識しました。毎日の授業の中で、児童が目標を決め、その時間に学ぶことに見通しをもって学習を進めること、授業の中で児童が学び方や場所、人数、方法などを選択できるようにすることが当たり前になるように、授業のスタイル（教え方）を変えました。また、児童が効率よく、かつ学びやすくするために、ICT機器を効果的に取り入れることの工夫を重ね、毎日こつこつと積み重ねていくことをしてきました。時間をかけることにより、児童にとってもその学び方が当たり前になり、特別感・違和感なく学ぶことができるようにしていきました。授業を見ていただいても大きく目立って、何か特別な手法が見えるわけではないかもしれません。しかし、授業を受けている子どもは、目標をもって主体的に学び、友達と相談して取り組み、自分で学習方法を決定して進めるなど、児童が自らの意思で学ぶ姿が見られると思います。きっと研究発表当日にもその様な姿を見ていただけると思っています。そのために教員は、なるべく指導の言葉を減らして、児童が考えて進める、人に聞いて学ぶ、振り返って自分の次の学習プランを考える機会を作るよう徹底しました。

町田市教育委員会の皆様からは、研究授業を実際に見ていただきながら直接のご指導を数多くいただきました。ご指導が次の授業への大きなヒントや教師の活力となり、研究を進めることができました。また、児童が自ら学びを進めるための有効な手段としてのICT機器の活用については、講師の倉澤 昭先生に２年間、丁寧にご指導いただいたおかげで、教員のICT活用力も伸びました。皆様のご指導で本日の研究発表会を迎えることができましたことを心より感謝申し上げます。

本研究が、ご参会いただきました多くの皆様の学校で、町田市の教育プランの具現化をしていただく際の一助となれば幸いです。「これならできるかも」と思っていただけたらとても嬉しいことだと考えています。本日は２年間の区切りとしての発表ですが、我々はまだまだ発展途中です。今後もさらに改善を重ね、子どもたちへの指導をよりよいものにしていきたいと考えております。町田市の公立学校全体の教育がさらに価値のあるものになっていけるよう学び続けます。

最後になりますが、本日の研究発表会に参加してくださった方々、支えてくださった保護者と教職員の会の皆様に御礼を述べて挨拶とさせていただきます。

研究構想図

教育目標　あたたかく かしこく たくましく

町田市教育プラン24－28
・「学び続ける力」を高めるための授業改革
・ICTを活用した学びの充実

金井小学校の実態
・苦手なことに対して粘り強く取り組むことが困難である
・学習の仕方が分からない

自ら考え、学びをすすめる金井の子
～「学び続ける力」を育むことを目指して～

基礎研究
・「学び続ける力」とは
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」とは
・教材研究と学級経営について

実態調査研究
・児童の学習に対する実態
・教師の授業に対する実態

目指す児童像
《重点》自分で決めたことは最後までやり遂げる子
《重点》友達と助け合って活動する子
（選択）難しいことでも挑戦する子
（選択）自分と違う意見を受け入れる子
（選択）自分のよいところを見付ける子
※《重点》は学校全体で取り組み、（選択）は学年の実態に応じて選択可とする。

研究の仮説
「個別最適な学びと協働的な学びを主とした授業スタイル」の割合を増やし、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図ることで、児童の「学び続ける力」を育むことができるだろう。

研究の視点
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現するための具体的な手だて
・学習のねらいを達成するための有効な選択肢
・教師の意図的な支援
・一人１台端末の効果的な活用

実証授業 検証と考察 成果と課題

実践紹介

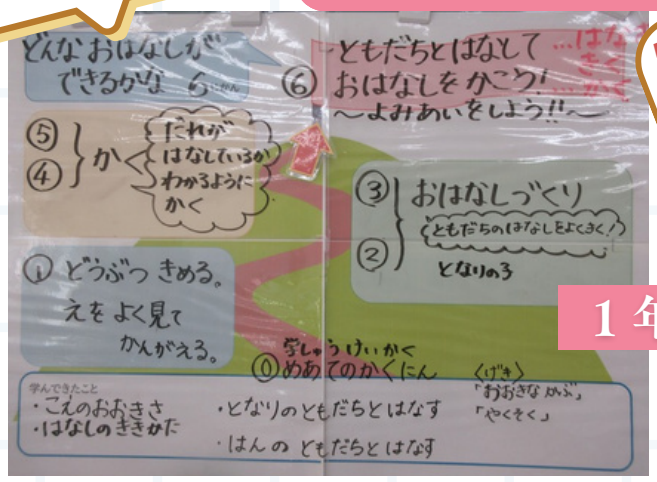
1　単元計画

★ラーニングマウンテン

鶴川第二小学校の実践を参考にさせていただきました。ラーニングマウンテンとは、学習計画を視覚的に示すツールです。児童が見通しを持って学習を進める上で役立ちます。

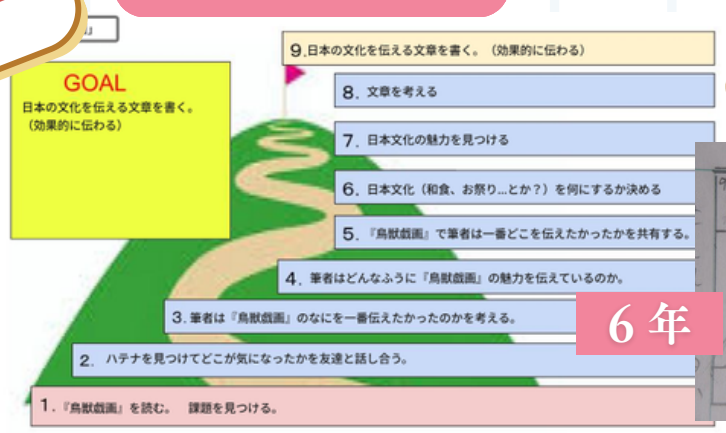
どんなゴールにするかをまず決めます。

ラーニングマウンテン

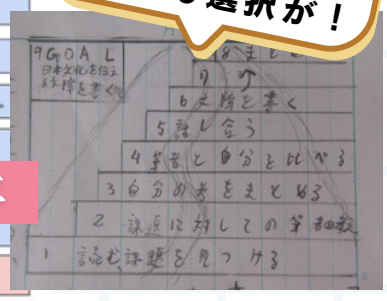


5年生はグループ単位で計画を立てることも！

ラーニングマウンテン



ノートか、フィグジャムか。ここにも選択が！



低学年では、学習のゴールとそれまでの道筋を、担任が主導して児童が決めます。

中学年では、児童の願いを元に、児童と教師が相談しながら計画を立てます。

高学年では、一人一人がゴールに向けてどのように学習していくのか、自分で計画を立てています。

2　選択の場面の設定

振り返りの視点

（例）中学年

・次の学習で調べたいこと

・初めて知ったこと

・学習前と比べて成長したこと

→自己の学びを客観視する経験を積み重ねる

（例）高学年

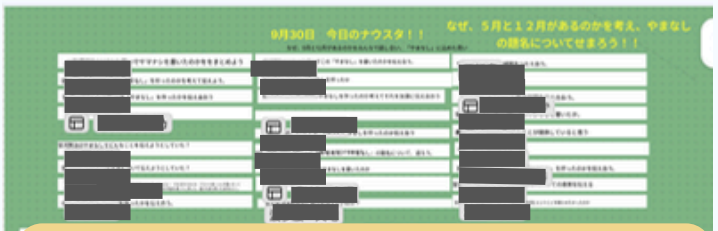
・今日学んだこと、進み具合

・次の学習につなげていきたいこと

・友達の意見から気付いたこと

→より正確に自己の学びを客観できるようにしていく

自分のめあてや課題



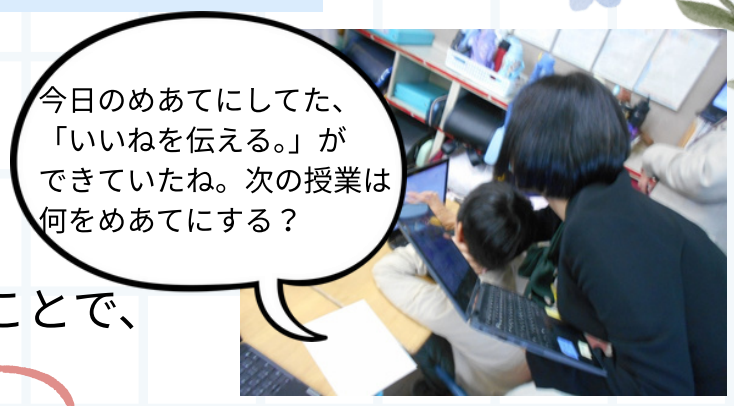
一人一人が自分のめあてを立てる。

誰がどのようなめあてをもって取り組んでいるのか、ひと目で分かる。（６年生）

実践紹介

3　教師の言葉掛け

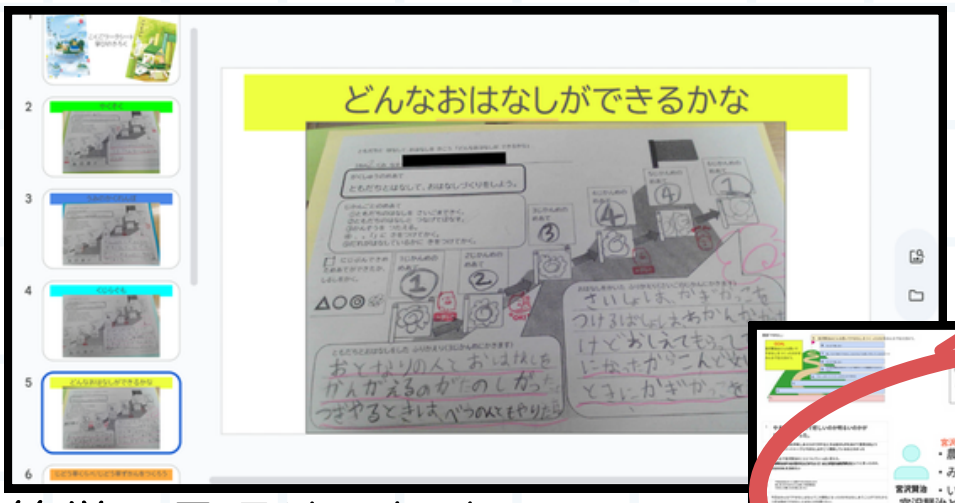
〇資質・能力の到達状況に応じた言葉掛け
☆協働的な学びを促す言葉掛け
♡自信をもたせる言葉掛け（価値付け）
など、子どもの実態や学習状況に応じて個別に声を掛けることで、
自ら学びを進めることができるように支援をしています。



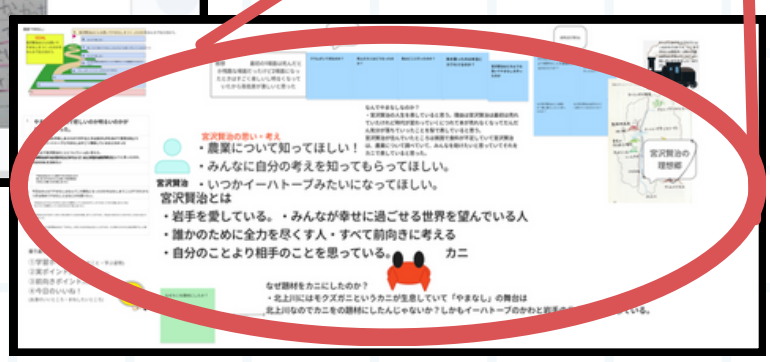
例えば
☆「〇〇さんが、その同じ方法で考えていたよ。
　　相談してみたら？」
♡「理由も伝えることができたね。」
♡「△△だからこう考えたんだね！なるほど！」

4　ICT機器の効果的な活用

スライドによる
学びの蓄積



簡単に見返せるため、
いつでも学習に生かせる。



参照した後の修正や変更も、
デジタルなら容易。

いつでも参照できる
▶自分の考えを広げたり
深めたりしやすい！

デジタルホワイトボード
ツールによる共同編集

実践紹介

5　学び方の段階表

学び方の段階表　＝　金井がイメージする学び方・子どもの学ぶ姿

ポイント／選択肢 6つの視点	低学年	中学年	高学年
	☆教師が提示した学び方に取り組む！（2年生から実態に応じて中学年を意識）	☆学び方を子どもが選ぶことができる！（4年生から実態に応じて高学年を意識）	☆教師から学び方の提示が無い状態でも、子どもが決めることができる！
課題設定	教師が提示した課題に取り組むことができる	自分に適した課題を子どもが選ぶことができる	自分に適した課題を子どもが決めることができる
学習形態	教師が提示した学習形態（個人、ペア、トリオ、グループ）で学習できる	「自分で学ぶ」か「他者と学ぶ」かを子どもが選ぶことができる	自分の考えを広げたり深めたりするために、個人・ペア・トリオ・グループかを子どもが決めることができる
場所・道具	教師が提示した場所・道具（クロムブックを活用する経験は必須）で学習することができる	「どこで学ぶ」や「何を使って学ぶ」かを子どもが選ぶことができる	「どこで学ぶ」や「何を使って学ぶ」かを子どもが決めることができる
情報収集	教師が提示した方法（クロムブックを活用する経験は必須）で情報収集をすることができる	「何から情報を収集するか」を子どもが選ぶことができる	「何から情報を収集するか」を子どもが決めることができる
まとめ・伝達	教師が提示した方法（クロムブックを活用する経験は必須）でまとめたり伝達したりすることができる	「何を使って」や「どのように」を子どもが選ぶことができる	「何を使って」や「どのように」を子どもが決めることができる
振り返り	教師が提示した相手や視点で振り返ることができる	「誰と」や「何を」かを子どもが選ぶことができる	「誰と」や「何を」かを子どもが決めることができる

※45分間に6つの視点を全て盛り込むわけではなく、単元で重点を置いてもよい。
※年間を通して「選択肢　6つの視点」を設定し、子どもが自分で学びを進められるように育てる。

低学年では「学習の基盤を形成する段階」、中学年では「選択を通して主体性を育てる段階」、高学年では「学びを自己調整する段階」として位置付けています。本校の研究では、学年の進行に伴って連続的に高めていく構造として捉え、各学年・各教科にて実践されています。

本校では、ICT活用を技能の習得や使用頻度の向上として捉えるのではなく、学習の質を高めるための手段として段階的に位置付けることを重視しています。ICTを「使うこと」そのものではなく、「学びにどう位置付くか」という視点で捉えることにより、授業改善を持続的に進めていくための指標として活用しています。

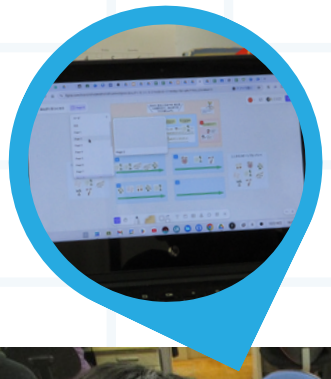
	低学年	中学年	高学年
多角的に検討しようとする態度	事象と関係する情報を見付け、検討しようとする	事象のつながりを捉えて検討し、考察しようとする	事象を構造的に理解し、批判的に考察しようとする
試行錯誤し、改善しようとする態度	情報活用を振り返り、自らの解決の良さを見付けようする	情報活用を振り返り、改善点を見いだそうとする	情報活用を振り返り、効果を見いだそうとする
情報モラルや情報に対する責任について考え、行動しようとする態度	友達の写っている写真やビデオを勝手に利用したり、個人情報を勝手に人に伝えたりしないことを知る	不適切な情報や有害な情報を見たり、友達のIDでログインしたりしない	肖像権や著作権といった互いの権利について守ろうとする
情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度	互いが発信した情報を組み合わせて、新しい考えを構築したり、作品を作ったりする	情報交換や、プログラミング体験から将来の社会を思い描くことができる	普段使っている情報機器が、より便利に使えるように、改善点や新しいアイデアを提案する

※ICT活用における学びの段階表より「学びに向かう力・人間性のみ抜粋」

実践紹介

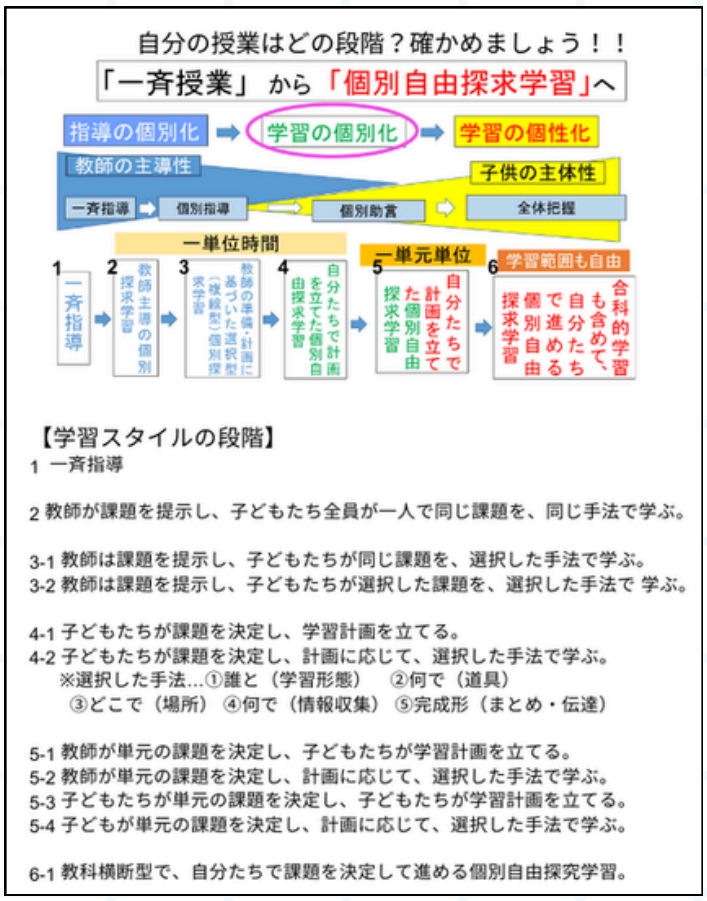
6　教師の学び合い

　学んでいるのは、子どもたちだけではありません。教師も学び合いをしています。金井の学び合いは自然発生的！若手、中堅、ベテラン、そして学年関係なく授業について熱く語り合う場面がたくさんありました。例えば、職員室の中で「こんなことやってるんだけど～。」と声がかかると、Short OJTが始まります。明日から使えるような実践や作った教材などを教えてくださる先輩がいて、学びの輪が広がります。



1年生でFigJamを使って授業するんだけど…

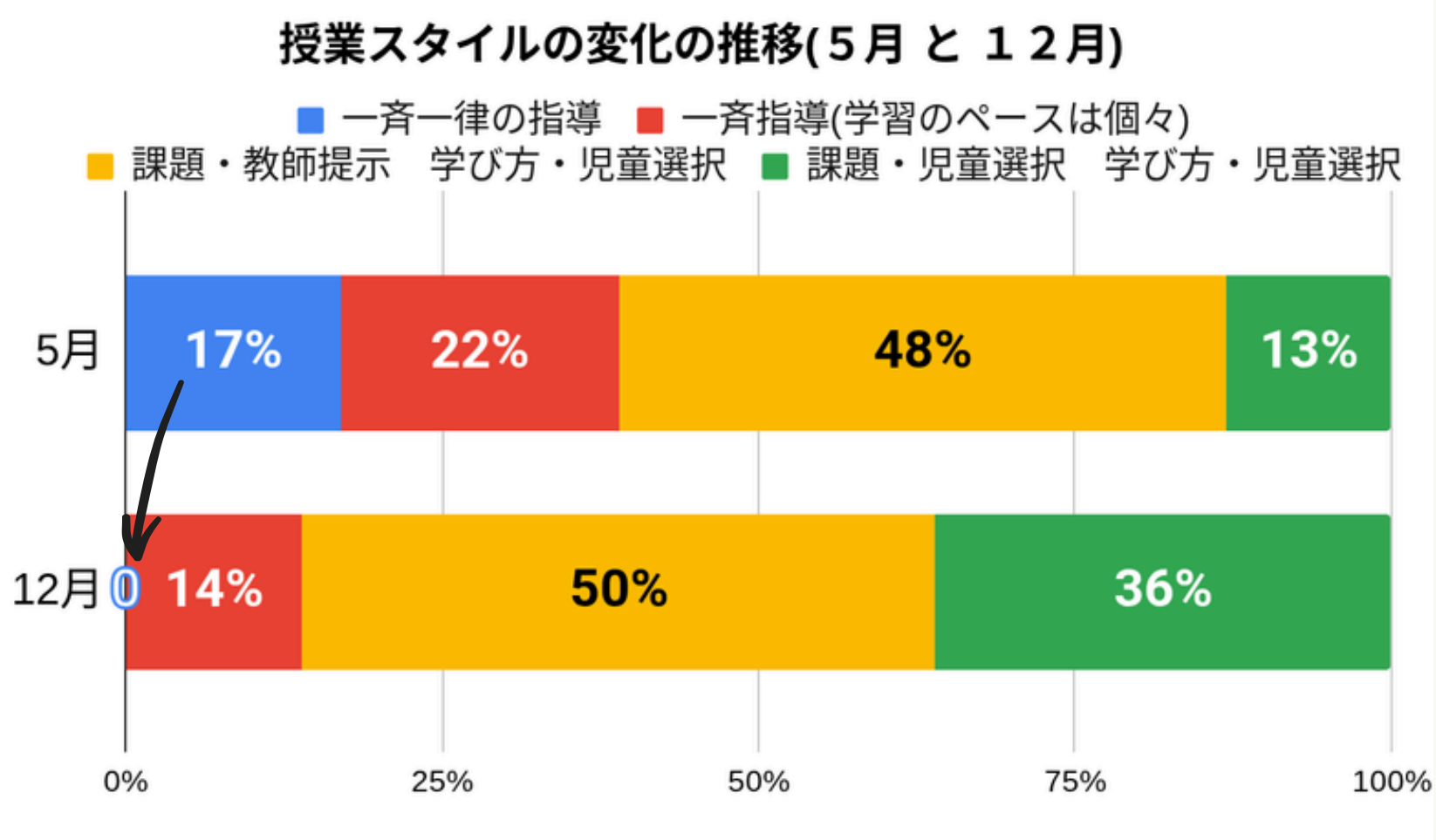
7　教師の実態調査



　教師の授業実践の現状を把握するため、毎月アンケート調査を実施しました。 調査の背景には、自身の授業スタイルへの不安や、今後の方向性が見えないことへの心配を抱える教師の声がありました。 本取り組みでは、月1回の振り返りを通じて教師自身の課題を可視化しています。集計結果をもとに、個別の相談や授業参観後のフィードバックを重ねることで、教師の不安を解消し、授業改善に向けた具体的な支援につなげています。

成果と課題

成果



【教師の実態調査・授業の現在地】　対象：金井小学校全校学級担任、専科担当
実施：2025年度 ５月～１２月

授業改革について、教師の指導力や児童の実態に応じて、「できそう」なことから段階的に取り組んできた結果、上のグラフのような変化が見られました。従来の一斉指導から、児童が主体的に課題や手法を選ぶ、自律的な学習形態へと変化したことが読み取れます。

本校の傾向として、学習を担当する学年が上がるに連れ、授業スタイルの段階も上がることが分かりました。

成果と課題

○教師の声から

「学習に取り組めなかった児童が学習に取り組むようになった」
「静かな授業が、子ども同士の意見交換で活発になった」

これは職員室で聞こえた教師の声の一部です。授業を児童に任せられるようになったことで、児童が主体的に取り組む姿が見られるようになりました。その姿を教師が喜び、価値付けることで「授業が変わると子どもが変わる」というサイクルが生まれました。

○高い水準にある「協働的に学ぶ姿勢」

学年	5月(肯定的)	12月(肯定的)	増減幅 (pt)
1年生	未実施	87%	0
2年生	83%	92%	↑ 9
3年生	94%	94%	0
4年生	95%	96%	↑ 1
5年生	95%	94%	↓ 1
6年生	94%	93%	↓ 1

【学び方のアンケート】　設問2
学習中、他の人と考えを交流したり、助け合って活動していますか。（している・だいたいしている）

左のように、他者と協働することに対して、すすんで取り組んでいる児童が多くいることが分かりました。教師の学習スタイルが進展したことにより、他者と考えを伝え合ったり、一緒になって思考錯誤したりする場面が日常的に設定されたことが効果的だったと考えられます。

【学び方のアンケート】
対象：金井小学校全校児童
実施：2025年度 5月・１２月

成果と課題

課題

◯失敗を恐れず、最後まで取り組む力の低下

【学び方のアンケート】
設問４.間違えたり、失敗したりした時、あきらめずに最後まで取り組めていますか。

学年	5月(肯定的)	12月(肯定的)	増減幅(pt)
2年生	94%	93%	-1
3年生	91%	88%	-3
4年生	89%	82%	-7
5年生	92%	79%	-13
6年生	86%	85%	-1

【学び方のアンケート】
対象：金井小学校2～6年生
実施：2025年度 5月・12月

学び方のアンケートでは、上記の設問で若干の低下が見られました。そのため５年生を対象に追跡調査をしたところ、「5月に比べて12月の方が、『できた』を厳しく評価するようになった。（自分に課すハードルが高くなった）」「間違うことや失敗することがこわいけれど、諦めない力はついた。」と答えました。このことから、自分の状況を客観的に把握できるようになった「精神的成長」が進んでいると考えられます。

今後は、「学習のゴールイメージの具体化」「教師の言葉掛け」に視点を当て、児童が自己の学びに自信と手応えを感じられるようにしていきます。

また教師から、「教師も児童も、学び続ける力を育てる授業スタイルに慣れるには、時間と経験が必要」『児童に委ねる授業』の準備時間が欲しい。」という声が挙がりました。教師の指導力、児童の学び続ける力の向上、日常的な実践のためにも、カリキュラム・マネジメントの見直しや校務の精選が必要だと考えます。

あとがき

町田市立金井小学校　副校長　日沖　達彦

本校は２０２４年度と２０２５年度、町田市教育委員会の研究指定校として「自ら考え、学びをすすめる金井の子～『学び続ける力』を育むことを目指して～」を研究主題に設定し、学校全体で日々の授業改革と研究に取り組んできました。

２年間の研究を通して、日々の授業を見つめ直し、教師が児童に「教える」だけではなく、教師が児童の学びを「支える」ことで、児童が主体的に学習計画を見通し、児童自ら選択、決定しながら学びを進め、児童の「学び続ける力」を育むことを目指して研究を進めてまいりました。それと同時に授業改革の手だてとして、児童自らが学習計画を立て、見通しをもつための「ラーニングマウンテン」や児童自ら選択、決定できるように「教師の言葉掛けの工夫」、「ＩＣＴ機器の効果的な活用」、「学びの段階表」などに取り組みました。このような教師の意識改革や取り組みを研究授業だけではなく、日々の授業から改革しました。

本研究を進めていく中で少しずつ日々の授業から教師の言葉掛けや手だてが変化するとともに、児童も教師の指示を待つのではなく、児童自ら学習のゴールをイメージして、自信をもって学習の方法や資料を選択、決定して学びを深める姿が増えました。児童が自信をもって学習しながら、発展的な学習や新たな学習に興味をもつこともできました。また児童と教師への実態調査のアンケートでも意識の変化が大きく見て取れました。本校の２年間の成果や今回の研究発表を通して、ぜひ多くの先生方の日々の授業改革のご参考になれば、幸いです。

そして本研究を進めるにあたり、放送大学客員准教授兼、元杉並区教育委員会ＩＣＴアドバイザーでおられる倉澤昭先生から２年間にわたり様々なご指導やご支援、ご助言をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

〈ご指導いただいた先生方〉

放送大学　客員准教授　　倉澤　昭　先生

町田市教育委員会　　統括指導主事　新井　拓　先生

指導主事　安本　典生　先生

教育センター指導主事　尾﨑　菜穂登　先生

指導主事　小松　千草　先生

研究に携わった教職員
☆研究推進委員長　〇研究推進委員

2025年度

校長　須藤 潤一郎
副校長　日沖 達彦
主幹教諭（４年１組）
〇村上 慎一

１年１組	三田 順子	みどり	山本 真由子
１年２組	〇青木 赳志	みどり	大河原 桃子
２年１組	上原 陽子	みどり	〇宮下 蓮司
２年２組	〇大友 あすか	音楽	〇小早瀬 健一
２年３組	草野 夕香	図工	緒方 康二
３年１組	☆松本 晋和	算数	森 一華
３年２組	君塚 朋子	理科	〇西垂水 久美子
３年３組	大森 翼	養護	平山 安奈
４年２組	浅野 冬馬		
４年３組	小河 のど佳		
５年１組	石田 彩音		
５年２組	〇江﨑 瑛里奈		
５年３組	石黒 知子		
６年１組	川崎 淑恵		
６年２組	〇田崎 あすか		
６年３組	伊東 峻		

2024年度

窪田 純　前田 雅子　宇佐美 毅　甲斐 真由美

memo

memo